第 16 回国語分科会国語課題小委員会・議事録

平成 30 年　1 月 19 日（金）
15 時 00 分 ～17 時 00 分
旧文部省庁舎2階･文部科学省第2会議室

〔出席者〕
（委員）沖森主査，石黒，入部，川瀬，塩田，鈴木，関根，滝浦，田中，やすみ，
山田，山元各委員（計 12 名）
（文部科学省・文化庁）髙橋国語課長，鈴木国語調査官，武田国語調査官，
小沢専門職ほか関係官

〔配布資料〕
1　第 15 回国語分科会国語課題小委員会・議事録（案）
2　分かり合うための言語コミュニケーション（仮題）（案）
〔参考資料〕
1　報告案Ⅲ－１とⅢ－２（Ｑ＆Ａ）対照表（案）
2　四つの要素の概念図案について
〔机上配布資料〕
○　国語関係答申・建議集
○　国語関係告示・訓令集
○　国語分科会で今後取り組むべき課題について（報告）
○　国語に関する世論調査　分類別問い一覧（平成 28 年 12 月 6 日版）

〔経過概要〕
1　事務局から事務局の異動（髙橋国語課長就任）について報告が行われた。
2　事務局から配布資料の確認が行われた。
3　前回の議事録（案）が確認された。
4　配布資料２「伝え合いのための言語コミュニケーション（仮題）（案）」について説明があり，説明に対する質疑応答と意見交換が行われた。
5　参考資料２「四つの要素の概念図案について」の説明があり，説明に対する質疑応答と意見交換が行われ，概念図は始めに簡略なものを一つ載せることが了承され，図案については更に検討するとされた。
6　報告のタイトルについて意見交換が行われ，「分かり合うための言語コミュニケーション」とすることが了承された。
7　次回の国語課題小委員会について，平成 30 年２月 16 日（金）午後１時から３時まで旧文部省庁舎２階・文化庁特別会議室で開催することが確認された。
8　質疑応答及び意見交換における各委員の発言等は次のとおりである。

○沖森主査
ただ今から第 16 回の国語課題小委員会を開会いたします。
まず，事務局に異動があったとのことですので，報告をお願いします。

○武田国語調査官
１月 16 日付で西田憲史が文部科学省高等教育局医学教育課長に異動し，新たに髙橋

憲一郎が国語課長に着任いたしました。

○髙橋国語課長

先般１月 16 日，火曜日付けで国語課長を拝命いたしました髙橋憲一郎と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

前職は生涯学習政策局政策課というところで，中央教育審議会の総会の取りまとめ，文部科学白書，学校基本調査や社会教育調査など，統計関係の取りまとめの室長をしておりました。文化庁は，今回の異動で初めての経験ですが，近い仕事をさせていただいたところとしましては，主に学術行政，研究行政の部署ですが，人間文化研究機構を担当している学術機関課に２年近くおりました。それから，やはり学術ですが，研究振興局振興企画課というところで，人文社会専門官，いわゆる人文社会科学の振興を担当するポジションにいました。それから，ポスドクを支援する研究者養成専門官ですとか，主に科学技術・学術関係の部署で大学における研究を支えるという観点から，特に文科系の学問について，それを支える仕事をさせていただいたこともあります。

文化庁自体は初めてですが，自分のこれまでの知見を，できるだけ総動員して国語政策をしっかりと進めてまいりたいと思いますので，委員の皆様にはどうぞよろしくお願い申し上げます。

それから，私，１月 16 日付けでの異動でしたので，国語課題小委員会の報告書はほとんど出来上がっている，お取りまとめいただいている形に，ほぼなっているかと思います。そういった意味で，委員の皆様には，これまで大変精力的な御審議を賜っており，改めて御礼を申し上げたいと思います。

私からの挨拶は以上です。皆様，よろしくお願い申し上げます。

○沖森主査

ありがとうございました。

では，コミュニケーションの在り方及び言葉遣いについての協議に移ります。配布資料２「分かり合うための言語コミュニティー（仮題）（案）」を御覧いただきたいと思います。事前にお送りしてありますので，既にお目通しいただいているかと思いますが，この案は，先月 15 日の国語課題小委員会での御意見を基に主査打合せ会のメンバー及び事務局を中心に整理したものです。

まず，事務局から配布資料２について，前回からどのような変更があったのか，その説明をお願いします。

○武田国語調査官

それでは，全体を通して，どのようなことに注意をしながら変更したかをお話ししたいと思います。まず，１ページの目次が，今までよりも少し詳しくなっております。そして，御覧いただくと分かりますが，目次の各章のタイトルなどが若干変わっております。例えば最初のところ，「コミュニケーションに関する基本的な考え方」という言い方をしていたんですが，「基本的な考え方」とシンプルな言い方にしているなど，その後の部分についてもタイトルが変わっているところがあります。

そのほか全体として，主査打合せ会の中で，例えば意図せず新しい用語であるとか，新しい概念のようなものを打ち出していると捉えられたりすることがないかといった観点ですとか，例示がちゃんと例示として受け取られるかどうかといった観点ですとか，これまでの国語施策との齟齬（そご）がないかですとか，そういった観点で全体を見直しております。

○沖森主査

ただ今の事務局の説明について，御質問がありますでしょうか。　（ → 挙手なし。）

では，協議に移りたいと思いますが，まず，冒頭から内容を区切って御意見を頂きたいと思います。今回も全てを読み上げることはせずに，事務局から，簡単に修正のポイントを説明していただいた上で，質問も含めて意見交換をしていただくことにいたします。

ただ，修正箇所だけでなく，ここは慎重に協議を進めたいという部分があれば，逐次その部分を読み上げていくというような御提案を頂きたいとも思います。前回も読み上げないと，そのまま素通りしてしまうことが結構あったものですから，そういった御提案は是非とも御遠慮なく頂きたいと思います。

まず，「はじめに」から「Ⅰ　基本的な考え方」まで，ページで言いますと６ページまでについて，修正のポイントを説明していただき，その後，協議に移りたいと思います。

○武田国語調査官

この部分に関しては，それほど大きな変更はありません。細かな文言の修正などはございますが，そうした中でも比較的大きなところだけ説明いたします。まず，先ほども申し上げたとおり，目次に詳しいものが付いております。そして，見出しがかなり前回と変わっています。

それから，５ページを御覧ください。これはまた今日御意見が頂けると大変有り難いと思っておりますが，「ＳＮＳ」という言葉が出ています。前回の主査打合せ会の中で，「ＳＮＳ」の定義について，もう少し詳しくした方がいいのではないかという御意見がありました。今回はほんのわずかに文言を付け足しておりますが，より良い定義がありましたら，ここに新たに書き加えたいと思っております。それから，学校の教科書で「ＳＮＳ」を扱っている中に，定義がないかということも考えておりまして，後ほど場合によっては，付け加えていきたいと思っております。特に，１から６ページに関しては以上です。

○沖森主査

では，冒頭から６ページまでについて，質問も含め自由に御意見を頂きたいと思います。ただ，１ページの上にありますタイトルにつきましては，本日の協議の最後に御相談したいと思います。それ以外の部分について，具体的な修正案，あるいは更に検討すべきところなどがあれば，是非とも御意見を頂きたいと思います。

○田中委員

ちょっとまだ全体通して，お示しいただいているものを読み終えていませんが，まだ「媒体」と「手段」が混在していて，その上下関係も曖昧な感じがします。どうも「媒体」の方が，数が多いような気がしますし，「媒体」でそろえるならそろえる，「手段」が上位にあって，その下位に個別に「媒体」があるとかといったことであれば，それにそろえた形で，全体を通して書いた方がよいと思います。ところどころ，多分自分自身もチェック漏れしているところがあると思うんですが，もう一度全体を通して検索を掛けてチェックしてもらった方がよいと思います。

それに連動してですが，５ページのところ，「ＳＮＳ」の定義について，前回からの変更点と伺いました。国語の教科書でも，「ＳＮＳ」を取り上げている会社は複数あったと思います。教科書の下の注のところに入っていると思うので，そちらは教科書の方でも精査しながら進めていた記憶がありますから，合わせていただいていいと思います。

そうであれば，一番良いものにそろえていただくのがよいと思います。恐らく今回付け加わったんだと思いますが，私自身が今回のものを拝見して，添付でお送りいただいたときにちょっと見て気になったところとしては，「ＳＮＳ」だと，丸括弧の中に「人と人がつながり合い」というのが入っています。人間性を持たせたかったのかもしれませんが，これはなくていい言葉だと思いました。

○石黒委員

１ページの目次を改めてざっと見て，とても分かりやすいと思いますが，「Ⅰ　基本的な考え方」だけ「コミュニケーション」という言葉が付いていません。Ⅱは，「コミュニケーションについての課題とこれから」となっていて，１が課題で，２がこれからで，きれいに対応しています。Ⅰの「１　コミュニケーションへの期待」と「２　分かり合うためのコミュニケーションとは」のところでは，「期待」の部分が抜けている気もします。例えば，「コミュニケーションをめぐる議論」－この言い方が適正かどうか分からないんですけど，「コミュニケーションをめぐる議論と基本的な考え方」とか，何かその方が目次だけ独り歩きすることもあるかと思いますので，整理した方がよいと感じました。

○川瀬委員

私も，「ＳＮＳ」の丸括弧の中，「人と人がつながり合い」というのが妙に詩的な表現だなと思って，要らないと思いました。

それと，「双方向のやり取り」というのは，「馬から落ちて落馬して…」と同じになっていませんか。やり取りって双方向かなって気がするんです。双方向の情報交換－でも，情報交換は同じか－何かどっちかでいいのかなと悩みます。「ウェブを介しやり取りを行う」とかでいいのかなという気がいたします。

○田中委員

関連で，ここのところ，私もおっしゃったとおりだと思うんですが，双方向性が担保されているといったことをどこかに入れたい思います。何となくいろいろ付けたり，切ったり貼ったりしているうちにこうなっていると思いますが，「やり取り」といったことだけで双方向性が読者に十分に伝わるのであれば，よいと思います。ただ，双方向性をもう少し強調したいのであれば，「やり取り」の表現を工夫するなどが必要かと思います。

○塩田委員

今の「ＳＮＳ」のところについてですが，これはどこかで何とかを目的としたシステムということではないかと思うんです。フェイスブックもツイッターも，双方向にならない場合が多いです。こっちが読むだけのことって多いわけで，「目的とした」という形でどこかで結んだ方がよいように思いました。

○滝浦委員

既に何度も話題になっていると思うんですが，「分かり合うために」とか，「分かり合うための」という言葉が目次にたくさん出てきます。全体のタイトルが「分かり合うための言語コミュニケーション」なので，当然と言えば当然ですが，Ⅰ―２，Ⅱ，Ⅱ―２，Ⅲと，随分同じような言葉が出てくると，そういう印象を持ちます。

○沖森主査

では，続いて，「Ⅱ　コミュニケーションについての課題とこれから」について御検

討いただきます。ページで言いますと，７ページから 13 ページまでになりますが，この部分についての修正のポイントをまず説明していただき，その後で意見交換をお願いします。

○武田国語調査官

７ページからの直したところについてです。まず，見出し，それから，７ページ，下から三つ目の「◇主義主張の異なる者同士でどう歩み寄るか」というところ。ここは，以前はお互いにぶつかってしまって，共通理解が築けないような場合にも尊重し合うというような表現があったんですが，尊重できない場合ももちろんあるであろうということで，「決定的な対立や争いを避けるには」という，そういった書き方にとどめてはどうかという御意見があり，修正しています。

８ページ，上から二つ目の「◇」です。ここでは，前回，三つ目の文から四つ目の文に掛けて分かりにくかったということで，御提案に従って，「そもそも，言葉遣いについては，誰かに直接注意や助言をすることに，慎重である人が少なくないため，教わる側に学ぼうとする姿勢がなければ，適切な助言を得ることは難しい」と書き直しております。

９ページから 10 ページに掛けてですが，ここは順番を入れ換えております。元々今回の（５）と（６）が逆でした。（５）の方に「情報化の進展によるコミュニケーションの変化」がありましたが，（５）と（６）を入れ換えて，（５）に「対面でのコミュニケーションに対する意識」を持ってきております。

加えて 10 ページに，「◇言葉の重みが失われている」という項目を新たに設けました。２（６）の最後に，この「◇言葉の重みが失われている」とほぼ同じ内容のことが書かれていました。しかし，ここは課題を指摘している部分でしたので，こちらの課題の方に移動しました。そして，これをこちらに持ってくるに当たって，（５）と（６）をひっくり返した方がより分かりやすいのではないかということで，このような並びにしました。

10 ページにもう一つ。下から二つ目の「◇」です。「理解し合えない場合にも互いを尊重する」という文脈だったところを「異なりを認める」ということで落ち着けております。最後の文も，「自分とは異なる考えや意見が存在するということを認めるよう努力したい」と修正しております。

続きまして，12 ページです。下から二つ目「◇受け手に合わせて媒体を選ぶ」というものがありますが，これは，前回まで一つ上の「◇」と一緒になっていたところです。一つ上の「◇」の中で，この「受け手に合わせて」ということも書かれておりました。ただ，ここだけ少し長いので段落を分けてはどうかという御提案があったんですが，段落だけではなくて，項目を一つ増やす形で対応いたしました。

最後，13 ページ，一番上の「◇」です。文字を手で書く習慣についてですが，最後にもう少しはっきりと「手書きの効能や文化を意識し，その習慣を生涯にわたって大切にするとともに，後世に伝えていきたい」と，前回分かりにくいという御意見がありましたので，はっきりとした書き方にしております。

○沖森主査

では，７ページから 13 ページについて，質問も含めまして，自由に御意見を頂きたいと思います。

○田中委員

感覚的なことで申し訳ないんですが，13 ページ「◇文字を手で書く習慣も大切にする」の，多分今回苦労なさってお変えになったところだと思うんですが，「生涯にわた

って大切にするとともに，後世に伝えていきたい。」とは，何か生涯にわたってしなくてはいけないのかといった感じに読めます。ちょっと何か大仰な感じがあります。年賀状とかには一筆添えてあった方がもちろんよいなど，分かるんですけれど…。

○沖森主査
「生涯にわたり」と「後世」と，二重にあるということもありますね。

○山元委員
８ページの語彙のところについて。
上から 11 行目の「できる限り言葉を尽くそうと努力した経験はは」の「は」が一つ多いということ。
それから，「◇自信を持って伝え合うための語彙力が十分でない」の最後の文ですが，「自信を持って伝え合うために，どのように語彙力を身に付けていくかが課題となっている。」の部分で，教育をやっているせいか，どのようにというと，語彙力を付ける方法というような理解で読んでしまいます。ですが，ここは自分自信が語彙を蓄えていこうとする意識です。そういったものを持つことが必要ではなかろうかという提言の言葉に変えた方がよいのではないかと思いました。
つまり，「語彙を自ら蓄えていこうとするような意識が必要ではなかろうか」とするということです。

○川瀬委員
これ，前のところもそうなんですが，字の大きさなんですが，（１）の後に ◇ があります。括弧ってどうしても半角右側にずれてしまうので，主張が弱い感じがします。この括弧の行，もう１ポイントというか，２ポイント大きくしたらどうでしょうか。上がもう少し，ここがタイトルでその実例が ◇ なんですというのがもう少し分かってもいいのかなという気がいたしました。見た目の問題ですので，これは何か決まりがあるのでしたら，このままでももちろん結構です。

○やすみ委員
13 ページのさっきも出てた「文字を手で書く習慣も大切にする」のところで，上から２行目で「印刷文字で書かれたものに手書きによる一言を加えることが喜ばれる」と言い切っているんですけれど，何か人を喜ばすための方法ではなくて，伝え合いなので，より一層丁寧に伝わりますという言い方の方がふさわしいのかなと，そういう印象を受けました。

○沖森主査
では，引き続き，「Ⅲ　言語コミュニケーションのための具体的方策」の「１　言語コミュニケーションの四つの要素」について御検討いただきたいと思います。ページで言いますと，14 ページから 19 ページに相当します。前回の御議論を受けまして，更に変更を加えている部分があります。その変更点を簡単に説明していただいた上で，まずは 14 から 16 ページまでを読み上げていただき，意見交換をしていただきたいと思います。

○武田国語調査官
まず，14 から 19 ページまでですが，ここは前回いろいろ御議論いただいて，具体的な御意見がたくさん出たところです。それに沿っていろいろなところを直しております。読み上げますので，この辺りが変わったなということをお分かりいただけると思

いますが，皆さんにお送りした後に直したところを申し上げます。
16 ページ，「分かりやすさ」の②を御覧ください。下の二つの □ が変わっています。
17 ページ，⑤の一番上の □ の表現が少し変わっております。これが，お送りした後に変更したところです。
では，14 から 16 ページまで読み上げたいと思います。
「Ⅲ　言語コミュニケーションのための具体的方策
1　言語コミュニケーションの四つの要素
分かり合うためのコミュニケーションとは，複数の人が互いの異なりを踏まえた上で，情報や互いの考え，気持ちなどを伝え合い，理解し合い，その理解を深めることである。
コミュニケーションは，言葉の周辺にあるもの，また，言葉以外のものによっても行われ，影響を受けるが，その中核を担うのは，言葉によって伝え合うこと，つまり，「言語コミュニケーション」である。特に，価値観が更に多様化し，共通の基盤が見付けにくくなると考えられるこれからの時代においては，互いの異なりを乗り越えて歩み寄ることがこれまで以上に必要である。そのためには，言葉によって考え方や気持ちを表し，擦り合わせていくことが欠かせない。また，多様な他者との間で起こりやすい誤解を避けるための言葉の使い方を身に付けておく必要もある。さらに，もし誤解が生じてしまった場合には，それを解くのも言葉によるほかない。
では，言葉による伝え合いの質を高めるには，どのようなことに留意すべきであろうか。言語コミュニケーションが円滑に進んでいるときには，次に挙げる四つの要素が，目的に応じてバランス良く言葉のやり取りを支え，言葉の使い方に反映されていると考える。まず，「正確さ」がある。これは，互いにとって必要な情報を誤りなくかつ過不足なく伝え合うことである。次に，「分かりやすさ」がある。これは，互いが十分に情報を理解できるように，表現を工夫して伝え合うことである。さらに「ふさわしさ」がある。これは，場面や状況，相手の気持ちに配慮した話題や言葉を選び，適切な媒体を通じて伝え合うことである。そして，最後に「敬意と親しさ」がある。これは，伝え合う者同士が近づき過ぎず，遠ざかり過ぎず，互いに心地良い距離をとりながら伝え合うことである。
この四つの要素を意識し，目的に応じてそれぞれの軽重とバランスを調整しながら，情報や互いの考え，気持ちなどをやり取りすることが，分かり合うための言語コミュニケーションを実現していく上でのヒントとなる。また，四つの要素それぞれを生かす上で，実際に気を付けるべき事柄がある。各要素について主に留意すべき観点を挙げ，さらに，それらの観点についての，より具体的な事項の例を示した。観点等は，重要な点を参考として示すものであり，全てを網羅してはいない。
以下，四つの要素について順に見ていく。」
先ほど言い落としたんですが，前回「チェックポイント」という言葉を使ってはどうかということがあって，そういった案が一度主査打合せ会でも検討されたんですが，□ があってチェックポイントというと，それが網羅的に示されていて，それをチェックしながら読めば，コミュニケーションの力が上がるというように捉えられるのもいかがなものかという御意見がありました。ここでは，観点，事項という言い方，使い方に変えております。
では，「正確さ」のところを読んでまいります。
「（1）正確さ
「正確さ」に留意するとは，互いにとって必要な内容を誤りなくかつ過不足なく伝え合うことである。コミュニケーションの目的が達成されるよう，互いにやり取りする情報，考え，気持ちなどを誤解なく，意図するとおりに伝え合うために必要な要素を

指す。

「正確さ」に留意する上での主な観点の例。

①意図したことを誤りなく伝え合うための言葉を用いているか。

□ 仕事などにおいてふだんから必要となる語彙に精通している。

□ 専門的な用語などについて内容を損なわれないように説明している。

□ 知らなかった言葉を正しく理解しようと努めている。

②ルールにのっとって言葉を使っているか。

□ 語句や言い回しなどの意味や用法を，辞書等で確認する習慣を持っている。

□ 主－述，修飾－被修飾，並列，接続それぞれの関係や語順などに留意している。

□ 漢字，仮名遣いのルールに従うとともに，句読点や符号などを適切に用いている。

③誤解を避けているか。

□ 誤解が常に生じ得ることを理解し，生じやすい状況にないかを意識している。

□ 聞き違いが起こりやすい表現や複数の意味に取れるような表現を避けている。

□ 互いの気持ちや感情に関わる誤解を避けている。

④情報に誤りがないか。

□ 適切な裏付けとなる事実や引用を出典と共に示し，情報の信頼度を高めている。

□ 誤った，又は，偽った情報を見分けようと日頃から意識している。

□ 事実と意見を分けて示し，推測にすぎない場合は，それを明示している。

⑤情報は目的に対して必要かつ十分か。

□ 最も伝えたいことを曖昧にせず伝え，知りたいことは引き出すよう努めている。

□ 言い落とし書き落としや，聞き落とし読み落としがないか確かめている。

□ 混乱を招く不要な情報を除いている。

（２）分かりやすさ。

「分かりやすさ」に留意するとは，互いが十分に内容を理解できるように，表現を工夫して伝え合うことである。やり取りする情報，考え，気持ちなどを，言い換えたりたとえを使ったりして相手と歩み寄りながら伝え合い，お互いを理解するために必要な要素を指す。

「分かりやすさ」に留意する上での主な観点の例。

①互いの知識や理解力を知ろうとしているか。

□ 相づちやうなずきなどから，相手の知識や興味・関心，理解の速さを押し測っている。

□ 質問や疑問文を用いて，相手の知識や興味・関心，理解の程度を確認している。

□ 質問，相づちやうなずきなどによって，自分の理解の度合いを伝えている。

②互いに理解できる言葉を使っているか。

□ 話題の前提となる文脈や情報を共有するよう努めている。

□ 仲間内や専門家同士以外では，広く通用する言葉を使っている。

□ 具体例や比喩を用いるなど，説明の仕方を工夫している。

③情報が整理されているか。

□ 相手や目的に応じて，あらかじめ必要な情報を絞り込んでいる。

□ 因果関係と相関関係とを区別している。

□ 主題となる事柄と補助的な事柄とを区別して扱っている。

④相手にとって聞いたり読んだりしやすい情報になっているか。

□ 聞き取りやすいように声の大きさ，速さ，間などを調整している。

□ 文字の大きさや読みやすさ，配色，レイアウト，行間，字間などに留意している。
□ 一文を短めにしながらも，必要な情報は伝えている。
⑤構成が考えられているか。
□ 最初に主題を提示するなど，伝える情報の順序や優先度に配慮している。
□ 考えの根拠となる具体例やデータを，必要に応じて図表なども用いながら示している。
□ 具体例やデータなどが根拠として適切であることを示し，主題に結び付けている。」
以上です。

○沖森主査
では，14 ページから 16 ページまでについて，質問も含めまして，自由に御意見を頂きたいと思います。ただ，イメージ図と言いますか，概念図につきましては，この後，別に時間を取って御意見を頂くことにいたしますので，まずは，概念図以外の部分についての御意見を頂きたいと思います。

○川瀬委員
16 ページの「分かりやすさ」の，「③情報が整理されているか」の二つ目，「因果関係と相関関係とを区別している」という言葉が，何かちょっと枠が大き過ぎるというような感じがあったんですけども，これはどういうことを元々入れていたんでしたでしょうか。「因果関係と相関関係」とはどういうことでしょうか。

○武田国語調査官
先日の主査打合せ会の中で，論理的な関係についてもう少し踏み込んだ内容が必要ではないかという御意見がありました。具体的には，その一つの大事な観点として因果関係，つまりＡが起きたら必ずＢが起きるというか，そういった関係。それから，相関関係，ＡとＢの間にはつながりがあるといった関係の違いということを，どこかできちんと言うべきではないかという御意見です。
そこで，御指摘いただいたとおり，浮いている感じがあると思いながら，取りあえずここに入れてあります。それから，Ｑ＆Ａにもそういったことが多少加筆されています。ただ，もう少し工夫をするようにいたします。

○関根委員
15 ページ「正確さ」の③の２番目「聞き違いが起こりやすい」について，恐らく書き言葉と話し言葉との両方含めてここで述べていると思うので，そうすると，「聞き違いと読み違い」でしょうか。あるいは両方合わせて「取り違い」にしてもいいかと思いました。⑤の２番目では，「聞き落とし読み落とし」となっているので。
それから，16 ページの①の２番目「質問や疑問文」とは，これも話し言葉のときの質問，書き言葉のときの疑問文ということでしょうか。

○武田国語調査官
「文」という言葉の使い方について，私も御相談すべきかと思っていたのですが，会話の中でも文は文なのかなということで，その辺りは余り厳密に区別しないで使っているところがあります。

○関根委員

質問と疑問文というのはどう違うのかなと思った次第です。

○沖森主査
レベルが違うものが並列されているという感じかもしれません。

○塩田委員
16 ページの②ですが，「互いに理解できる言葉」というのは，「相手が」ということになるのではないでしょうか。多分，自分が分からない言葉を使うわけはないと思うので。

○川瀬委員
丸数字の下の具体的な事項がどうしても □ だとついチェック入れたくなるんですけども，チェックポイントじゃないんだったら， □ ではなくても，普通に ・ が並ぶ方が例に見えるという気がします。何となく □ があると，ついチェックを入れたくなってしまって，やっている／やっていないとなりそうな気がするんです。見た目の問題ですが…。

○山元委員
16 ページの②の「互いに理解できる言葉」という意味なんですが，塩田委員のお考えを聞きつつ，これはお互いが共有できる言葉という意味なのかと，私は思っていました。しかし，相手が理解できる言葉というように解釈されるのかどうか，どちらなのでしょうか。お互いが共有できる言葉という意味なのか，相手が理解できる範囲での言葉を話すときは使うということなのか。

○武田国語調査官
恐らくどちらも含まれると思います。それが分かるように直したいと思います。

○塩田委員
「互いに」は，私は，「言葉」に掛かると思っていたんですが，「使っているか」に掛かるかもしれないんですね。

○石黒委員
16 ページ④の 2 番目ですが，「文字の大きさや読みやすさ」で始まって，次，「配色」となって，手書きなのか，それとも，パソコンか何かで打っているのかと悩みます。
もしパソコンか何かで打っているのであれば，フォントの種類などが問題になるでしょうし，反対に，手書きだと余り配色という言い方はしないかと思ったりして，どちらかなと思いました。

○田中委員
15 ページ「正確さ」の①の三つ目です。「知らなかった言葉を正しく理解しようと努めている」の「正しく」は，なくてもいいんじゃないかと思います。というのは，何でも別に正しいものがあるわけではないと，私たちは言っているわけですから。
知らなかった言葉を理解しようと努めている，辞書などを引いたりしようってことですよね。

○沖森主査

続いて，17ページから19ページを読み上げていただき，意見交換に移りたいと思います。よろしくお願いします。

○武田国語調査官

では，読みます。

「（３）ふさわしさ

「ふさわしさ」に留意するとは，目的，場面や状況と調和するように，また，相手の気持ちに配慮した言い方を工夫しながら，適切な媒体を通じて伝え合うことである。やり取りする内容に関して，互いにとってふさわしく感じの良い話題や言葉を選んでコミュニケーションを成功させるために必要な要素を指す。

「ふさわしさ」に留意する上での主な観点の例。

①互いの気持ちに配慮した言い方を考えているか。

□ 自分の用いる言葉を受け手の側に立って客観的に捉え直すよう心掛けている。

□ 必要に応じて，直接的な表現を避けたり，配慮ある表現に言い換えたりしている。

□ 相手に配慮しつつも，自分の考えや気持ちをきちんと伝えている。

②目的に調和した内容を取り上げているか。

□ 相手や第三者を不用意に傷つけるような話題を避けている。

□ 具体例やエピソード，比喩の内容に配慮している。

□ その相手と伝え合うことが適切な内容であるかどうか吟味している。

③場面や状況に合った言葉遣いになっているか。

□ 仲間内とそれ以外の場合とで，言葉や言葉遣いなどを使い分けている。

□ 地域の言葉と共通語それぞれの機能と効果を踏まえた使い分けをしている。

□ 場面ごとの習慣や文書・書類の形式等にのっとった言葉遣いをしている。

④目的に合った手段・媒体を使っているか。

□ 伝え合う上で，互いが困らない手段・媒体を選んでいる。

□ 媒体の特性を理解し，それを意識しながら用いている。

□ 重要な用件では，対面で伝え合う機会を作るようにしている。

⑤互いの言葉に対して寛容であるか。

□ 自分が正しいと思う言葉や言葉遣いだけが適切であるとは限らないと意識している。

□ 言葉や言葉遣いの正誤にばかりこだわらず，込められた気持ちを大切にしている。

□ 言葉や言葉遣いについて，人から学ぶ姿勢を持っている。

（４）敬意と親しさ

「敬意と親しさ」に留意するとは，伝え合う者同士が近づき過ぎず，遠ざかり過ぎず，互いに心地良い距離をとりながら伝え合うことである。相手との関係性を踏まえて示す敬意と親しさのバランスを心地良く保つために必要な要素を指す。

「敬意と親しさ」に留意する上での主な観点の例。

①伝え合う相手との関係性を考えているか。

□ 互いの立場や役割，属する社会集団，年代などを意識している。

□ 互いの共通点や異なりを意識している。

□ 話題に上がっている人や第三者との関係性を意識している。

②敬意をうまく伝え合っているか。

□ 相手を立てるべき場面，品位を保つべき場面等で，適切に敬語を使っている。

□ 「召し上がる」，「伺う」，「参る」など，敬語の特定形を使いこなしている。

□ 尊敬語と謙譲語の取り違いや，二重敬語などの過剰な表現を避けている。

③親しさをうまく伝え合っているか。

□ 打ち解けた言い方が発揮する効果を意識している。

□ 挨拶に添える一言や「悪いのだけれど」など配慮を示す言葉を使っている。

□ 相手への共感を示す言葉を使っている。

④互いに遠ざかり過ぎたり近づき過ぎたりしていないか。

□ 相手が望んでいる心理的な距離を探り尊重している。

□ 相手を遠ざけてしまうような必要以上の敬語の使用を避けている。

□ 不用意に相手の個人的な領域や内面に立ち入らないよう留意している。

⑤用いる言葉が相手との関係性や距離感に影響することを意識しているか。

□ 「です・ます」などの丁寧語も相手との距離を作る場合があることを理解している。

□ 敬語の組合せ方の違いによって，相手との距離が変わることを意識している。

□ 同じ相手であっても，場面や状況によって適切な距離が異なることを意識している。

これら四つの要素は，互いを支え合うだけではなく，対立する側面も持っている。例えば専門家同士であれば専門的な用語を用いる方が内容を正確に伝え合うことに寄与する。しかし，正確さを重視して，それをそのまま一般の人に向けて示した場合には，分かりにくい情報になってしまうおそれがある。また，意味を取り違える心配の少ない直接的な表現をした方が，正確さや分かりやすさを確保できるとしても，それらを犠牲にして少し遠回しな言い方をした方が，相手の気持ちに沿うという点でふさわしい場合もある。私たちは，ふだんから，伝え合いの目的，相手，場面や状況によって，どの要素を優先し，あるいは控えるのか，バランスをうまく取りながら伝え合いを行おうとしている。そのことをよりはっきりと意識しておくことは，望ましい言語コミュニケーションを実現するためのきっかけとなる。

次節，「２　様々な言語コミュニケーション（Ｑ＆Ａ）」では，これら四つの要素とその観点について，実際に問題となる場面などを取り上げ検討し，理解を深める機会としたい。」

○沖森主査

概念図は後に回しまして，17 ページから 19 ページの，読み上げていただいた部分について，御意見がございましたら，お願いします。

○川瀬委員

17 ページの②の一つ目と，18 ページの④の三つ目「不用意に」がどちらも入っている部分なんですが，「不用意に」と「避けている」はどっちかでいいのかなという気がします。不用意は用意ができていないから起こることなんで，「不用意に」を使うのであれば，相手や第三者を傷付けるような話題はしないとか，傷付けないとか，何かそういう言い方でしょうし，「避けている」の方を生かすのであれば，「不用意に」は不要かと思います。

18 ページも同じように④の三つ目ですが，「不用意に」が必要であるんだったら，「相手の個人的な領域や内面に立ち入らない。」でいいのかなという気もします。「不用意に」を外して「留意している」の方を残すのか。ただ，確かに「不用意に」があった方が，いわゆる優しい表現にはなるので，この辺も対立の一つなのかなとも思います。御検討ください。

○鈴木委員

今更かもしれませんが，何箇所か「関係性」という言葉が出てきています。これは一般的なのでしょうか。「関係」と置き換えてはいけないのでしょうか。「関係」と「関係性」の違いが，意味としてよく分からないので，確認しました。

○武田国語調査官

ありがとうございます。今回，「距離」と「距離感」など，そういったものも整理しているんですが，今，頂いた御意見について，また改めて御検討いただきたいと思っています。

○関根委員

「ふさわしさ」のところですが，Ｑ＆Ａの方と対照して読んでいったんですが，「ふさわしさ」の「②　目的に調和した内容を取り上げているか」に関連するＱ＆Ａが見当たりません。つまり，「ふさわしさ」の①から⑤の中で，②だけが内容について触れていて，あとは全て言葉，言い方とか，言葉，言葉遣いに関していることです。

それで，　47 ページ，Ｑ26 の下の「データを見る」の，これが若干言葉というよりは，内容に関わることかと読みました。つまり，言葉の問題というよりは，こういうことを話題にすること自体の問題のように思えたわけです。

一つは，必ずしもＱ＆Ａと観点がきっちり対応している必要はないと思うんですが，全くないというのもどうかと思います。このＱ26 の下の部分をもうちょっと膨らまして作るというのが一つの提案。

それから，もう一つの提案です。Ⅲの具体的方策のところからは飽くまで言語コミュニケーションの話になっています。前段のⅠ，Ⅱの部分は，広くコミュニケーション，また，それを実現するための重要なやり方として言語コミュニケーションに注目するという内容で展開しています。そうした中で，もしかしたら，②の「目的に調和した内容」というのは大事なところだけれども，ここではあえて触れないというやり方もあるかと思いました。この「話題を避けている」，「具体的やエピソード」，「内容であるかどうか吟味している」などがちょっと言葉とは関係ないかと思うんです。比喩についてはＱ＆Ａでも取り上げていますが，これも「比喩の内容」ですから，ちょっと違うかと思いました。

それから，「ふさわしさ」①の「□　自分の用いる言葉を受け手の側に立って客観的に捉え直すように心掛けている。」というのは，これはこのままだと「分かりやすさ」で読んでも読めそうです。要するに，「ふさわしさ」というのは，気持ちだから，例えば何か感じるとか，何かの気持ちとか，そういう言い方がここに入るべきなのかと思いました。

もう一つ。「④　目的に合った手段・媒体を使っているか」のところは，最初の二つに比べて，最後の一つが結構具体的になっています。そのバランスが気になりました。もし，「対面で伝え合う機会を作るようにしている」みたいなことを挙げるのであれば，上の方でも，例えば「ＳＮＳは拡散性が高いから注意したい」とか，「顔文字なんかは発信者の意図どおりに伝わるとは限らないので注意する」とか，そういったＱ＆Ａで触れている具体的な注意点みたいなのを入れてもいいのではないか。そうすることでバランスを取るか，３番目の言い方を上の二つに合わせたような言い方にするか，そのように感じました。

○塩田委員

一つ確認です。19 ページ，上から５行目の「相手の気持ちに沿う」，この「沿う」の漢字表記は，沿岸の「沿う」と，添加物の「添う」があると思います。私自身は，例えば相手の意向に沿うみたいな，論理的なことであればこれだと思います。でも，この

部分はちょっと感情とか気持ちであると，添加物の「添」かなという気もします。これはもし例示でこうなっているんだったら，これはこれでかまいませんが，添加物の「添」の方が，感じが出るかと思いました。

○石黒委員

一つ目は，17 ページ③の１番目「言葉や言葉遣いなどを使い分けている」というところが多少くどいかと。「言葉遣いなどを使い分ける」より，「言葉を使い分けている」ぐらいがよいかと思いました。

それから，先ほど川瀬委員からコメントがあったところです。18 ページ④の３番目です。ここの表現はよいと思います。「相手の個人的な領域や内面に立ち入らないよう」という部分は。というのも，元へ戻ってしまうんですが，そのときはコメントしなかったんですが，８ページの真ん中の辺り「◇注意や助言を受ける機会を逸している」の最初の行，「人から立ち入られたり，人に対して立ち入ったりする」とは，どういうことか分からなかったのが，この 18 ページ④に来て初めて分かったので，統一したらどうかと思いました。

○関根委員

18 ページ「敬意と親しさ」のところですが，①の３番目「第三者との関係性を意識している」とか，それから，④の１番目「相手が望んでいる心理的な距離を探り尊重している」とか，そういうことについて，もちろんそのとおりなんですが，Ｑ＆Ａの方では，そういうことがすごく難しいといった結論になっています。

だから，ここを見て，どうしようかと思って，Ｑ＆Ａを見ると，そもそもそれは非常に難しいことですとなっています。この辺り調整できないかと思います。もちろん正に難しさを認識するということがまず大事なわけなので，そこのところを調整できればと思いました。

あと，さっき言ったように，必ずしも厳密に対応してなくてもいいけれども，やっぱりこの観点を読んで，じゃあ，どうすればいいかとなってＱ＆Ａを読むわけですから，ある程度その辺りが調整できればいいかと思います。例えば，③２番目の「挨拶に添える一言や，「悪いのだけれど」など配慮を示す言葉を使っている」に対応したものをＱ＆Ａに入れる必要もあるかと思いました。具体的にＱ＆Ａにありましたでしょうか。

○武田国語調査官

はい。入れました。

○塩田委員

この後，Ｑ＆Ａに移ると思うんですが，本体とＱ＆Ａで，今の御質問のように，この本体のところに「Ｑ○○参照」というものは埋め込まないということだったでしょうか。

○武田国語調査官

埋め込む予定です。

○塩田委員

本体の方には，これから埋め込むということでしたか。分かりました。

○滝浦委員

先ほどの関根委員のコメントと重なるんですが，「ふさわしさ」というと，ある種の

難しさがやっぱりあって，②は，中身に関するところ，内容的なふさわしさという観点も必要だとは思うので，よいと思います。ただ，二つ目「具体例やエピソード，比喩の内容に配慮している」とあって，具体的にどのようなことかと考えると，具体的な内容に配慮するのは分かるし，エピソードの内容に配慮するのも分かるんですが，比喩の内容に配慮するというのは相当難しいような気がします。伝わるのか心配なところがありました。

○沖森主査

では，概念図の協議に移りたいと思います。参考資料２にまとめていただいてあります概念図について御意見を頂きたいと思います。これについて，簡単に説明していただいた上で意見交換に移りたいと思います。

○武田国語調査官

それでは，参考資料２を御覧ください。前回の国語課題小委員会で是非デザイナーに外注してはどうかという御意見がありましたので，事務局で調整をしまして，そういったお仕事をしている方に依頼をしました。今，お示ししているものは，こういった意見があったとか，それから，考え方など，そういったものを一通り説明した上で出てきたものです。

１枚目を御覧いただきますと，観覧車バージョンと吹き出しのバージョンとがあって，これは先週の主査打合せ会でも御検討いただきました。その中で出てきた意見として，例えば上の観覧車バージョンですと，それぞれのものがアイコンのように使えるとなかなかいいのではないかといったものがありました。ただし，ここに，例えば男性や女性が分かるような図柄になっていたりするのはちょっと考えた方がいいのではないかというような御意見もありました。

それから，観覧車みたいなものがどういう意図なのかという御質問などもありましたが，デザインをしてくださった方に尋ねたところ，例えば「分かりやすさ」というものが上に来たり，「正確さ」というものが上に来たり，そういうことを表すという意図があったということです。それから，間に小さい観覧車のワゴンがありますが，これはこのように小さくなったりするときもあるという，そんなニュアンスを出したかったということでした。

それから，下の吹き出しバージョンはもう少しシンプルなものです。これも主査打合せ会で御覧いただきましたが，どちらかというと，主査打合せ会では上の観覧車バージョンの方に人気が集まったというか，御意見が集まりました。これを少し詰めていったらどうかといた雰囲気がありました。

そして，そういった議論を受けて再発注したものが次のページです。２枚にわたっていますが，一つは，先ほど読み上げた中に概念図の位置が２か所ありました。前回，四葉のクローバーを，例えば意識して使って，最初には四葉の形で四つの要素をシンプルに４枚の葉っぱに書き込む。そして，最後のところで四葉のクローバーの葉っぱの一つずつを並べて，そこに観点を具体的に書き込む。そういったものがあったらいいのではないかというお話がありましたので，そうした御意見を受けて，観点が入っていないものと入っているものをそれぞれお示ししました。

これは御覧いただくと分かるんですが，先ほど触れた，男女が分からない方がよいということについては解決しているんですが，例えば「ふさわしさ」の図柄については，事務局でも少し煩雑な感じがするといったことは話しております。これはまだ現段階のものですので，更に修正を加えていただきたいと思います。

それから，今回は出ていませんが，例えば前回話題にしていただいたクローバーの絵柄みたいなものも，考えてもいいのかなとも思っております。

まずはこれを一つのたたき台として，御意見を頂ければ大変有り難く存じます。よろしくお願いいたします。

○沖森主査
それでは，御自由に御発言いただければと思います。お願いします。

○田中委員
前回の主査打合せ会を欠席してしまったので，図表の１枚目のＡの観覧車バージョンが，人気があった理由をお聞かせください。

○武田国語調査官
人気があったと言ってしまったんですが，簡単に言うと，余り下の方は話題にならなかったというべきでした。主査打合せ会では上の方に注目が集まって，これはこのままだとジェンダーと言いますか，そういった問題があるかというようなことが話題になりましたが，下の方に関しては余り意見が出ませんでした。もしも下の方がということがあれば，是非そういった御意見も頂きたいと思います。

○田中委員
上の方は，謎だから質問が多かったとかいうことはないんですか。いなかったから分かんらないですけど，いらっしゃった方，どうでしょうか。

○塩田委員
とにかく話題に出なかった。下は字しかないんじゃないかという感じがしました。

○関根委員
わざわざイラストにするような感じではないというか…。

○田中委員
わざわざ絵にしたんだから，絵っぽい感じのＡの方がよいみたいな流れだったんでしょうか。

○関根委員
表みたいなものとそんなに変わらないですから。

○田中委員
個人的な感覚なんですが，私は，Ａはないなと思いました。ぐるぐる回って前景化するみたいなことを言っているんだと思うんですけど，ぐるぐる回るのと，それぞれの軽重があるのはやっぱり違うと思うし，何かこの間にあるよく分からない小さい観覧車が，これが大きかったり，小さかったりバランスを表すといったようなところも，意味が分からない。まず，これが観覧車だということが，言われて，「あっ観覧車なんだ」と思ったぐらいです。観覧車の中の絵についても，修正した方も，元の方も謎であると思っていたので…。ただ，これは私がただ単にセンスがないだけかもしれないですが…。
下の方については，字はごちゃごちゃ要らないにしても，シンプルでいいんじゃないかと思います。つまり，頭の中で私たちは吹き出しが大きくなったり，小さくなったりする，こっちの方が想像しやすいです。ぐるぐる回る観覧車はよく分からない。
それで，人気があったって，どういうことなのかと思った次第です。

○塩田委員
　私がＢに受けた印象は，頭が描いてあって，で，文字がいっぱいある。要するに，コミュニケーションを成立させるためにはこんないろいろあって悩んじゃって動けないという印象を受けました。だから，動きのあるＡの方がよいと思ったんです。

○田中委員
　好みですね。

○関根委員
　Ａの方がちょっと楽しいかなという。

○田中委員
　本当ですか。何かちょっと幼稚っぽい感じがしますが…。

○関根委員
　確かにそういう面もありますね。あと，ある程度こういうものってちょっと謎があって，何だろうって考えさせるくらいのほうがよいかなとも。

○田中委員
　これ，何かなみたいな。

○関根委員
　そう。それで，必ずしも別に観覧車じゃなくてもいいと思うんですよ，これを見て。描いた人は観覧車と思って描いているだろうけど，飽くまでイラストなので。

○田中委員
　見る人の自由に。

○関根委員
　ええ。

○田中委員
　別にＢがすごくいいと言っているわけじゃないですけど，Ａが謎過ぎるなと思っただけなので，人気の秘密を知りたかっただけです。

○沖森主査
　いかがでしょうか。詳細版と言いますか，14 ページの概略版，そして，19 ページの詳細版。この二つは，同じものでもいいでしょうし，違うものでもいいとか，いろいろとあるかと思います。また，手直しの御提案がありましたら，よろしくお願いいたします。

○川瀬委員
　概念図は二つ必要ですか，簡略版と詳細版と。概念図に詳細はないんじゃないかと思います。最初のところで，ぽんと文字数少ない絵が出てくれば，後ろで改めて図にする意味っていうのはどうなのかという気がします。と申しますのも，ほぼこれ，実寸大になると思うんですが，字が細かいです。図表の中に入っている字を見ると…。

概念図は，前に一つぽんとあるか，後ろに一つぽんとあれば，Ａ案，Ｂ案はどちらでもいいと思います。

○塩田委員

ＡとＢに共通するんですが，この電話のマークは，この形でも若い人はまだ分かりますでしょうか。今，こういう電話は余り見掛けないですけれど。

あと，いずれにしても，詳細の方が，文字が多いと思います。確かに，ずっと気になってはいたんです。じゃあ，どうしたらいいか。例えば「正確さ」のところで，「１　伝え合うための言葉」，「２　ルール」，「３　誤解を避ける」，「４　情報」とかって，全部できればいいんですけど，もしかしたら難しいかもしれませんし，確かに字が小さいというのは気になります。

○田中委員

電話は絵文字でこの形になっているから，象徴的に象形文字的に分かるんじゃないでしょうか。

○塩田委員

そうですか。分かりました。じゃあ，もうこれで固定しているんですね。

○田中委員

いずれ分からなくなるかもしれませんけれど。

○山元委員

感覚的な問題というか，聞いたことがある話ではあるんですが，観覧車バージョンで１枚目と２枚目の人の形のことなんですが，絵本とかを子供が読むときにベビーシェーマというんですが，ドラえもん形のところに何となく視点が，注目が集まるらしいんです。そういう意味で見たときに，１枚目と２枚目を比べたら，ふっと引き付けられるのは，目と笑顔の方かと思います。楽しいというような印象を受けました。ジェンダーの問題はさておき，目と笑顔というところに引き付けられました。

もう一つは，「分かりやすさ」，「正確さ」などの位置なんですが，これもまた聞いた話だから，本当かどうか分かんないんですが，人が買い物などで物を取るときに「Ｚ」の順に取るそうです。つまり，１枚目でいうと，「分かりやすさ」のところに視点がいって，次に「正確さ」，そして「ふさわしさ」，最後に「敬意と親しさ」と動く。コンビニなんかでお茶をドア開けて陳列棚から取るときに，よっぽど銘柄が気にならない限りは「Ｚ」の順番で取るという話を聞いたことがあります。この順番でいうと，「正確さ」が一番上の左，「分かりやすさ」が右，そして，３番目の左下が「ふさわしさ」で，右下が「敬意と親しさ」とすると，何となく読みたくなるというような，そういう作用があるのかもしれないなどと思いました。本当かどうか，皆さんの感覚とは違うかもしれませんが。

○関根委員

私も，目と口があった方がいいと思いました。最初のはジェンダー的なものがあったとしても，目と口だけだったら，それは多分そういうことにはならないと思うので，入れたらいいかなと思います。「ふさわしさ」のところはごちゃごちゃしていて，バランスでいうと，「分かりやすさ」と「敬意と親しさ」のところが人の形で，「正確さ」にそれがないので，「ふさわしさ」も，例えば電話とスマホとか，そんな感じでシンプルにするという手もあるかと思いました。

○入部委員

１枚目の上の観覧車のものは，もう観覧車というイメージなので，ぐるぐる回るイメージだったので，例えば「正確さ」の下に「分かりやすさ」が来て，「ふさわしさ」が来て，「敬意と親しさ」というような，ぐるぐる回るという，そういうはっきりとした観覧車のイメージがありました。

今回の２枚目の方は，余りぱっと見て観覧車のように思えないところがあるので，先ほど山元委員がおっしゃったように，これにするのであれば，やっぱり入れ換える必要があるかと思います。

○川瀬委員

ということは，やっぱり結局観覧車なんでしょうか。この吹き出し案は，もう支持する人はいないでしょうか。

○沖森主査

決めるポイントとしては，概略版と詳細版は二つ必要かどうかという問題と，あと，二つならばどちらがどちらとか，これがよいとかという問題も出てくるでしょうし，一つなら，これだとかというのも，どちらに置くかというものが出てくるかと思います。

まず，場所を考えていただきたいと思うんですが，川瀬委員は，最初だけでいいんではないかという御意見でしたが，この点について，まずいかがでしょうか。一つがよいか，二つがよいか。一つでいいとお考えでしょうか。

○山田委員

私も一つでいいように思います。

○沖森主査

はい。では，一つでいいとすれば，最初の概略版の方の位置か，詳細版の位置かということについては，これはいかがでしょうか。これは最初の方がよいということでしょうか。

○山田委員

最初の方がよいと思います。

○川瀬委員

かき混ぜるようで恐縮ですが，私，この３枚目の下の吹き出しバージョン，結構悪くないと思います。文字が少ないですし。いろいろ考えてみんなコミュニケーションしなきゃいけないよっていうのを，はめてみたときに，今まで割と固い文言が並んできた中で，いきなりにこにこマークの図が出てくるということに対してどうかと。このほかにイラストを入れるというようなお話も前回ございましたけど，何か（１），（２），（３），（４）と，最初の部分からかなり固い言葉を使っている中で，急にここで，子供っぽい絵柄が出てくるのはどうなんだろうという気もします。

○関根委員

だからこそということじゃないですか，分からないですけど。

○川瀬委員

好みでしょうね，多分この辺は。

○塩田委員
ここから先は本当に好き嫌いになっちゃうんで，私自身は，Ｂの新しい方も，やっぱり黒いシルエットの頭が悩める思春期，がんじがらめの私みたいな感じがします。動きがないので。

○川瀬委員
例えば，この吹き出しバージョンの横向いている黒い頭を前向いているにこにこ顔にしたらどうですか。

○塩田委員
笑っている顔だったら印象が違うかもしれません。何か動いてないところが。

○川瀬委員
四つあって，四つ並んだら笑顔になれたぞ，みたいなのはどうでしょうか。確かに横向いて黒いものだと，悩めるアイコンですね。

○塩田委員
あと，Ａの新しい方は，一個一個はものすごくよくなった反面，観覧車と言われないと観覧車と見えなくて，商店街の福引みたいに見えてしまいます。多分大きくなったからなんでしょう。前の方が観覧車らしい気はしました。これは大きくなって四つしかないからなんでしょうか。

○田中委員
観覧車とは思わなかった。

○入部委員
カラーだったらということで，選択肢になっているかと思うんですが，実際には報告書では白黒になる。
１枚目の上の方がはっきりとしていいんじゃないかと，そんなふうに意見申し上げたところがあるんですが，グラデーションだけで示すとなると，白黒でどのぐらい鮮明に出るのかなという危惧があります。その白黒バージョンも一回お示しいただくと有り難いと思います。

○沖森主査
それぞれ一長一短ということですので，取りあえずは，ここでは概念図は一つ最初に置くということは御了解いただけますでしょうか。
そして，その図柄については，もう一度今の御意見を踏まえたものにしていくと。

○武田国語調査官
このままお伝えして，今度の会議までにできれば２回ぐらいは皆さんにお送りして御意見を頂けるようにしたいと思います。

○関根委員
最後の図表Ｂの吹き出しバージョンの横顔を別のものにするというアイデアも，もしかしたら，伝えたら出てくるんじゃないですか。

○川瀬委員
今，描いてみたんですけど，結構かわいいですよ，正面で笑っている顔。

○関根委員
でも，また，砕け過ぎるところもあるかもしれない。もうちょっと何か抽象的なものにするとか，多分イラストレーターはそういうアイデアはあると思うので，お願いしたらいいんじゃないかと思います。

○田中委員
一つ質問いいですか。これは一人のデザイナーに発注しているんですか。ＡとＢを同じ人が作っているのか，同じ事務所の違う人が作っているのか。

○武田国語調査官
同じ人です。

○田中委員
同じ人なんですね。そうすると，本人もＡがよいと思っているということですねよいと思っている方を大体先に示すから。

○沖森主査
よろしいでしょうか。あとは，この小さい文字は一応この際省くという形でよろしいんじゃないかと思いますが，いかがでしょうか。　（ → 了承。）
では，そのようによろしくお願いします。
続きまして，Ⅲ－２に移りたいと思います。様々な言語コミュニケーションの部分について，御検討いただきたいと思います。ページで言いますと，20 ページ以降です。まず，修正のポイントなどを御説明お願いいたします。

○武田国語調査官
それでは，20 ページを御覧ください。今回 20 ページから 21 ページに掛けて，扉というほどのものでもないんですが，Ｑ＆Ａに入る前の前書きと，それから，問いの一覧を設けました。それで，この扉の，20 ページの２段落目を読み上げたいと思います。このＱ＆Ａの位置付けとしてどのように読んでもらいたいかということがこの２段落目に書いてあります。
「なお，ここに示す回答が唯一の正確というわけではない。そもとも，言語コミュニケーションには常に通用する正解があるわけではない，というのがこの報告の基本的な考え方である。そのことを前提としながらも，今日の日本語や日本語に対する国民の意識，調査研究の成果等を踏まえ，このＱ＆Ａを作成した。各人が言語コミュニケーションを考える際のヒントとなることを目指し，一定の裏付けをもって示された一つの考え方として参考にしてもらうことを意図したものである。」
といった書き方になっております。
それから，「もう少し深く」などのアイコンの後の部分ですけれども，その２段落目からを御覧ください。
「なお，前節までと同様，原則として公用文の書き表し方の基準に従った表記を採っているが，必要に応じて，「？」や「！」などの符号や，ウェブサイトなどに見られるような公用文の基準とは異なる表現等を用いている部分がある。」
という書き方をしております。これは，前もって少し公用文らしからぬと言ったら

大げさですが，そういった表現もありますので，書いておくということです。
それから，問いの一覧に関して，こういった形でお示ししていますが，五つに分けています。「全般的な問い」，「主に「正確さ」に関する問い」，「主に「分かりやすさ」に関する問い」，「主に「ふさわしさ」に関する問い」，「主に「敬意と親しさ」に関する問いまで五つに分けた形になっています。これを本当に分けるのがいいのかどうかという御意見も頂いておりますが，今日は五つに分ける形になっております。
それで，前回までもこれに近いものが出ていましたが，どういったところを修正したかということですが，例えば外来語など難しい用語が用いられている場合には，それはなるべく和語，漢語に直すということをいたしました。
それから，内容に重複がある場合，それを削ったり，あるいは必要な重複であれば，例えば問いの言い方を変えたり，あるいは順番を入れ換えたりするなどして，その重複感がなくなるように努めました。
それから，これは，主査打合せ会の委員の方々を中心にお書きいただいて大変有り難いもので，親しみやすさという観点で非常に読んでいて楽しいものが多かったんですが，従来の答申などの文体とのバランスということもありますので，少し全体的に落ち着くような文体，書き方に調整しています。
それから，非常に印象的な図であるとか，表が何箇所かありましたが，そういったものが，その図とか，表だけが取り出されて，意図とは違うところで解釈され，独り歩きするというおそれがあるかもしれないということで，オリジナルの表ですとか，図というものは，今回全部文章化して落としています。
それから，全部で五つから六つぐらいグラフを追加しています。これは，「国語に関する世論調査」の結果のグラフです。前回「データを見る」というところがあるにもかかわらず，グラフがあったり，なかったりするという御指摘を頂きました。そういった点を考慮したものです。
以上，非常に大部の部分になりますので，ここで全体についての御意見というのは難しい面もあるかもしれませんが，是非何か御意見を頂戴できればと思います。

○沖森主査
それでは，20 ページから 56 ページまでという大部のところですが，お気付きの点がありましたら，御自由に御発言いただければと思います。

○滝浦委員
問いの抽象度と言うんでしょうか，例えば 21 ページを見たときに，Q15，Q24 などは簡潔な問いになっているんですが，一方，２行にわたるなどもっと長い問いがあったりします。
例えば私自身，Q32，Q33 辺りを書かせていただいたんですが，御依頼いただいたときには，ファイルの上の方にちょっと抽象的な問いが書かれていました。そして，その問いに対して，一段具体的になった設定で書いてほしいという感じかと見えたので，具体的にしなきゃいけないと思って，思い切り具体的にしてしまいました。逆にこれだけ見せられると，この人は何を考えているんだっていう感じもしてくると思います。
それで武田国語調査官に伺ったんですが，抽象度の違う問いが二つ並んでいると煩わしいという御意見もあって，一つにしているというか，その方向で考えているということだったんですが，どちらでもいいと思います。ちょっと抽象的な問いを立てて，具体的なのを下に置いていくというふうにするか，それが煩わしければ問いは一種類だけで行くか。
ですけれど，もし後者であれば，ちょっと抽象度の水準を調整しないと，ここにあるものを見るだけだど，具体的に過ぎるということが逆に問題になるのかなということ

を思いました。

○関根委員

Q20 の片仮名語のところですが，この「片仮名語」という言い方と「外来語」という言い方を整理した方がよいと思いました。最初は「片仮名語」となっていて，「データを見る」では，「古くから外来語と取り込んで」と，外来語についての話があって，しかも，その下の方に「漢語や和語に言い換え」とある。漢語や和語だとやっぱり外来語が対応する言葉になるかと思います。

もう一つ言わせてもらうと，真ん中辺りに例として「ガバナンス」で括弧してあって，「インキュベーション」で，括弧して（注）とあります。これは変かなと思いました。別に「注」と付いてなくても，括弧であれば，それは注を付けることで，説明を併記するという意味だとなります。新聞なんかでよくやるんですが，前の方に説明の言い方を出す，例えば「起業家の育成や新しいビジネスを支援するインキュベーション施設」とかですね。そのような例を持ってきて，それを併記の例にしたらいいかと思いました。

○川瀬委員

20 ページ，21 ページの問い一覧がすごく字が多くて，余り一覧になっている意味がないと思いました。もちろんその後ろの，質問の文章そのままを持ってきていただくというのも，一つの考え方なんでしょう。でも，もう少し簡略化して，例えば「分かりやすさ」のことが気になるなという人が見て，じゃあ，そのQ18 を見てみようとか，手掛かりになる言葉がここにはあればいいのかなと思います。ただ，すごく手間も掛かりそうなんで，酷なことを言っているかという気もいたします。

○武田国語調査官

当初このＱ＆Ａを最初にお考えいただいたときに，Ｑ１の上に具体的な問いに入る前に一言まとめみたいなものがありました。それを落とすという方向でここまできているんですが，そういった一言まとめと同じようなものを付けるということであれは，そういう対応はできます。

ただ，その場合に，こちらにも戻した方がよいかどうかということもあると思います。一言でその問いの内容を言い表す言葉を頭に置いて，それで問いが始まる形というのが当初の形だったんですが，それに戻して，目次の方にも一言で表す形を入れるというやり方もあると思います。

また，少しくどい感じがあるということであれば，目次の方にだけ一言を入れるというやり方もあるかと思いますが，いかがでしょうか。

○沖森主査

私からの質問ですが，今の御指摘の目次というのは，最初にある目次でやるということですか。そこに入れるんですか。

○武田国語調査官

20 ページ，21 ページにある問いの一覧のことです。

○沖森主査

問いの一覧ですね。了解いたしました。

○田中委員

20 ページの前文みたいなところで，「もう少し深く」など入れているところがありますよね。ここの見出しがどこに入っているか，実際に見てみると，大体似たような感じでも，まちまちに付いていたりします。

これは誰かが，「こういうのだったらこれ」といった形で，見直してもらえればいいかと思います。原文を書いた人たちは，最初は「データを見る」つもりで書いたけれど，データがなくなってしまって，「更に深く」的になっているとか，いろいろあると思うので，通しでもう一度付け直していただいた方がよいと思います。取りあえず，「更に深く」が多い感じがするので，こんなになくてもいいのかなと…。

あと，勝手に自分で「注意！」とか作ってしまったので，それはよきようにお取り計らいいただければと思います。

○山元委員

「参考」部分に，四角で囲んであって，「「○○」で検索」とよく書いてあります。これは検索してみてくださいという意味なので，「検索を」にするか，何かリード矢印とか，何かアイコンを使っていると，より効果があるかと思いました。

それで，41 ページの「なお，国語国立研究所…」，これは「参考」部分で「「○○」で検索」という形にしないのでしょうか。アンダーラインを引く場合はどういうルールがあるのかなど思いながら，見ておりました。

○武田国語調査官

アンダーラインの部分は，リンクを張ってあるところです。にもかかわらず，例えば「「くぎり符号」で検索」と記しているのは，これが冊子になったときにはリンクが生きないですので，検索をしてくださいという意味で付けているものです。そこはもう少し書き方を工夫したいと思います。

41 ページのこの言い換え提案のところは，単純に下で幅が取れなかったので，書いていないところです。そこも考えたいと思います。

○塩田委員

23 ページ，Ｑ２の「もう少し深く」の第２段落で，「例えば，ＳＮＳなどでは相づちのような言葉が非常に頻繁に使われています。」とあります。これは，主査打合せ会でも，具体的に何を指すんでしょうかという質問があったんですが，私が担当していたときに，「「ああね」，「それな」，「ほんそれ」などのような」というのを入れていました。しかし，そういう言葉は今後何十年続くこの報告の中で，残っているかどうか分からないという理由で削ったということです。もう一つは，俗語っぽ過ぎるというのが，恐らくあったと思うんですが，そうだとするならば，例えば「相づちの役割を果たす言葉」とか，何か読む人が読めば分かるような形で残しておいていただけたらと思います。

あと，46 ページ，Q25 の下から９行目の「敬語の指針」からの引用部分，「部長は，フランス語もお話になれるんですか」は，「お話」は多分「し」が入ると思います。

49 ページ，Q28 で「１対１」が算用数字になっていますが，これはこれでもう決まりですか。要するに，この類似語で「イッタイタ」があると思うんですが，「１対多」のように算用数字と漢字と混ざる形になってしまうのか，あるいは漢数字の「一対多」にするのかという確認です。

○武田国語調査官

49 ページの「１対１」に関しては，表記をもう一度確認したいと思います。

○関根委員

私も個々に確認したいんですが，Q22 の質問が「「論理的」とはどういうことでしょうか。」とあって，Aが「論理的な伝え合いとは」という答え方になっています。そうすると，Qの方も「論理的な伝え合いとはどういうことでしょうか。そのためにどのようなことを心掛ければいいでしょうか」とした方が自然かと思いました。

それから，「更に深く」のところですが，「論理的な伝え合いを支える情緒力」というのに唐突感があります。確かに後の方で，「これからの時代に求められる国語力について」のことが引かれていて，ここから取っていると思うんですが，そのくだりと，その前の方の様々な意見が出てくるというところが，つながりが苦しいと思いました。

それから，Q23 のAがよく分からないんです。「結論を簡潔に述べるか，結論の伏線となるような」とありますが，この「伏線」という言葉についてです。こういう使い方をするのかなと思いました。要するに，「伏線」というのは，小説なんかでよくほのめかしとか，それとなくやることです。だから，余り論理性とそぐわない感じがしました。

それで，ここの書き方として，「もう少し深く」のところで，裁判員制度の話が出てきて，これはとてもよいと思いました。ただ，例が難しい方から出てきたなと。むしろ，その下の映画が面白いということ，こっちの例から入って，さらに，その裁判だって同じ流れでやっているんだという方が，読みやすいかと思いました。

それから，Q26 ですが，「もう少し深く」の見出しが，「一つの例として」というのはどうかと思います。「例を通して考えましょう」というのを受けているんでしょう。この部分は中身に沿って「言葉の組合せに注意」とか，そのようにした方がいいかと思いました。

あと，このそれぞれの「◆」のところが，例えば最初の文末は「…した方が良い」，その次も「…した方が良い」，三つ目も「…した方が良い」と，三つ「良い」となっています。その後の二つが「印象を与える」，「おそれがある」となっていて，最初の三つが，いわばストレートな回答を示しているのに，後の二つはそこまで言ってないような感じがします。ここを整理してもいいかと思いました。三つ目と四つ目が両方依頼のときなので，ここをまとめてもいいかもしれないと思いました。

それから，Q27 のAなんですが，文末の「決めるほかありません」というのは，ちょっと突き放した感じがあります。

○田中委員

ここは突き放した書き方にあえてしました。その点が気になるのであれば，代案をお願いします。

○関根委員

「どうか決めてかまわないでしょうか」とか。

○田中委員

「使うかどうかは決めてもかまわない」などか。お任せします。

○関根委員

何かもうちょっと突き放さない方がよいと思います。

もう一つ，Q31 についてです。「更に深く」で敬語の型と敬語語彙について書かれています。「更に深く」というよりは，こっちが基本のような気がします。だから，「更に深く」を変えればいいのかもしれないし，あるいは「更に深く」であれば，例えば「もう少し深く」のところで書いている明らかな誤りや過不足みたいなもんを書いておく

とか，変えた方がよいと思いました。

教えてもらいたい点が一つ。Q33 の質問文が「親しげに挨拶をしたら」となっていて，回答としては，要するに，敬語体か非敬語体かという話です。読んでいて，例えば前提として同級生とか，同年代集団というのが前提になっている話なのか，もうちょっと一般的な話なのか。「親しげ」という中には敬語的に言うこともできるし，非敬語的に言うこともできます。質問文で想定しているのはどういうサークルなのか。そうすると，具体的になり過ぎるかもしれませんが，例えば地域のサークルみたいなものと大学生のサークルみたいなものとはまた性格が違ってくるかと思います。これは聞きたいと思いました。

○滝浦委員

多分意図としては，「ため語」風の挨拶をしたら，というような感じだったかと思います。ただ，「ため語」とは使えないみたいなので，このような書き方になったのかと。

○入部委員

先ほども御意見がありました 20 ページ，21 ページですが，恐らく紙面調整のために 21 ページがあるのかなという気がしているんですが，その前の 15 ページから 18 ページのところに，それぞれ「Ｑ＆Ａのこちらを見てね」というものを作ることになると，20 ページと 21 ページが煩雑になるというか，また出てきているというイメージになってしまうかなと思います。

先ほど田中委員もおっしゃっていた，「もう少し深く」，「更に深く」などについて，どういう読み方をすればいいのか，どういうことが書かれているのかということを書けばいいかなと思うんです。それをどう書けばいいかというのは案がないんですが，その説明を，20 ページの下の部分に，現在は「問い一覧」になっている部分にきちっと書いた方が親切かという気がします。

だから，20 ページ，21 ページの一覧は要らないんじゃないかという意見です。

○川瀬委員

アイコンの「もう少し深く」，「更に深く」，「データを見る」，「視点を変えて」，「参考」，「注意！」では，足りないと思います。無理やりこれに当てはめている感じがします。私の感覚からすると，「もう少し深く」と「更に深く」は，深くの程度がどれぐらい違うんだろうとか思ったりします。

そもそもがもう，既に結構深い話じゃないかなっていうのだったりするので，何か無理にアイコンをこの四つ，五つに決めないで，その内容を包括するというか，短く表現できるような，それこそ「注意！」という方がぴんと来ると思います。「視点を変えて」とありますが，「どう視点を変えるの」か分からないようなものを，無理やり分類のためのアイコンにする必要はないんじゃないかと思います。

○関根委員

それについて，多分最初のころ，私が提案したんだと思うので，責任上発言します。むしろ，一律にそういう見出しを付けるのは大変なので，こういう言い方だったら，何かしらに当てはまるんじゃないかということで提案したつもりだったんです。

それが，むしろそれ以上に，それこそいろんな不確定，内容の濃いものが結局結果的に書かれてきたので，それでは，逆に物足りなくなったということじゃないかと思います。

だから，これで付けやすいのであれば，そういう形でやってもいいかもしれません。

○石黒委員

それで言うと，まず，常に「もう少し深く」で始まるところに無理があるのかと思います。要するに，Ｑ＆ＡのＡを深くするということが前提になっているようなんですが，実はそうでもありません。つまり，Ｑ＆ＡのＡは飽くまでも要約であって，次の部分の説明から，またもう一度その話が始まっているので，どっちかというと，「まずはここから」みたいものが最初にあった方がよいと思います。

先ほど関根委員が御覧になっていた「敬語の指針」辺り，例えば 52 ページ，Q31 ですが，まず，基本的な知識があって，「もう少し深く」というのは，多分，川瀬委員がおっしゃったように，「もう少し深く」，「更に深く」だと，深さの程度が分からなくなるので，どちらか一つでよくなるように整理した方が見やすいと思いました。

○沖森主査

それでは，全体のタイトルについて御協議いただければと思います。

前回の国語課題小委員会で頂いた御意見を基にしまして，主査打合せ会でもう一度検討した結果，本日の資料に仮題として挙がっております「分かり合うための言語コミュニケーション（報告）」を本日改めてタイトル案として御提案したいと思います。

副題を付けるという考え方もありますが，引用などの際に不便な面があるという御意見もありまして，また，今回「分かり合うための」という言い回しを冠にしましたところ，それで十分注目していただけるタイトルではないかと考えられます。前回の国語課題小委員会でもおおむねこの「分かり合うための言語コミュニケーション」というタイトル案に賛意を表す御意見を頂いたと認識しています。

そこで，最終的に本日，決定をしたいと思うんですが，このタイトル案について御意見を頂ければと思います。　（ → 挙手なし。）

では，報告のタイトルは「分かり合うための言語コミュニケーション（報告）」という形にしたいと思います。　（ → 了承。）

どうもありがとうございました。

それでは，少し時間がありますので，全体を通して御意見を頂ければと思います。どうぞお願いします。

○川瀬委員

今は 56 ページで終わっていますが，この後はどのように終わるんでしょうか。

○武田国語調査官

これまでの議論の経緯ですとか，そういったものをまとめて，資料が最後に付く形になります。それから，委員名簿などもここに入ることになります。

○関根委員

見出し，質問一覧を見ると，最初，全般的な問いはともかくとして，「正確さ」，「分かりやすさ」が九つずつで，「ふさわしさ」が六つで，「敬意と親しさ」は七つになっています。バランスにこだわるわけではないんですが，こういう形で出ると，やっぱり「ふさわしさ」にもうちょっと欲しいと思います。

特に今回「ふさわしさ」というのを打ち出したというのが割に一つのポイントかと思うものですから，例えば最初の課題とか，基本的考え方なんかでは，いわゆる異なりを尊重し合うとか，同質的な社会から価値観の多様化とか，あるいは寛容性とか，その辺をかなり打ち出しているので，もしかしたら，そういうものに関連した問いが「ふさわしさ」のところにあればいいかなと思います。

この期に及んで，これからやろうというのは無理もあるかもしれませんが，もし，先

ほど言ったようにＱ＆Ａを調整する中でそういうものができてくれば，そういうものがあってもいいかと思いました。

○川瀬委員

こういう報告文書の場合，「はじめに」はあっても，「終わりに」はないんでしょうか。この質問で，「ここで終わりなのか」という感じもあります。というのは，逆に２ページ，３ページにある「はじめに」と，前書きの枠の付いた文章とニュアンスが似ているという雰囲気もなくはない。

例えば後ろの四角の括弧の中で，四つの要素をここで提示するので，全部外しちゃうわけにはいきませんが，「いろいろ難しいし，正解もないけれど，みんなで頑張っていこうよ」みたいなニュアンスの「終わりに」というのが１枚あったらいいかと思います。そういうものがあるのは恥ずかしいものですか。

○武田国語調査官

こうしなくてはいけないということはありません。是非，主査打合せ会でまず検討していただきたいと思います。

○川瀬委員

ハウツー本みたいになってしまうかもしれないなと思いながら，いろいろと質問させていただきました。

○山元委員

19 ページなんですが，全体の大きな流れを見た場合，四つの要素があるという結論をもう少し最後の一文に入れたいと思います。19 ページは，これら四つの要素の，対立する側面もあるから，バランス取るのが大事だという，そこで終わっています。しかし，四つの要素の最後の部分ですので，四つの要素を意識して，締めくくりの言葉を入れた方がよいと思います。バランスが大事だというところでぷつっと終わってしまわないで，何か総括的な文が 19 ページの最後にあればいいなと思いました。

○沖森主査

本日も熱心に御議論いただきまして，誠にありがとうございます。頂いた意見を踏まえ，主査打合せ会で内容を煮詰めて，次回の国語課題小委員会で小委員会としての最終的な案を改めて御検討いただきたいと思いますので，引き続きよろしくお願いします。

本日の国語課題小委員会はこれで閉会といたします。御出席，誠にありがとうございました。